

令和8年7月13日

実施報告書

文部科学大臣 殿

朝日新聞社ライフスタイル事業本部
文化事業部長 平野 菜穂子

展覧会における美術品損害の補償に関する法律に基づいて令和7年1月28日に文部科学大臣と美術品補償契約を締結した展覧会が終了しましたので、実施報告書を提出します。

1. 開催概要

展覧会名	ミロ展	
開催施設名	会期	入場者数
東京都美術館	令和7年3月1日～7月6日	257,065 人
●開催概要 ※申請書に記載した当初の趣旨・目的等の達成状況について、データを提示しながら記入 ※展覧会評・レビューがあれば、その出典・要旨を提示し、展覧会の客観的な評価を記入 本展は、ピカソやダリと並び、20 世紀スペイン美術を代表する巨匠であるジュアン・ミロ(1893～1983)の大規模な回顧展である。近年の再評価を踏まえ、日本国内では鑑賞機会の少ない戦前・戦中の代表作や、1930 年代の「星座」シリーズなど、絵画を中心に、陶芸・彫刻等の立体作品を含む約 100 点を通してミロ芸術を包括的に紹介した。 入場者数は 257,065 人となり、多くの方々が来場した。主催者が実施したアンケートにおいては、「とても満足」「やや満足」と回答した方の割合が全体の約 98.5%(有効回答数 9,421 件)となり、高い満足度を得た。 また、本展はテレビ、雑誌、新聞など多数のメディアで広く取り上げられ、社会的関心の高さが示された。 - テレビ: 日曜美術館、ねこのめ美じゅつかん、グッド! モーニング、林修の今知りたいでしょ! ほか - 雑誌掲載: 芸術新潮、美術の窓、和楽、婦人画報、美術手帖 ほか多数 - 新聞紹介: 朝日新聞、読売新聞、毎日新聞、中日新聞、ほか一般紙、地方紙多数		

2. 美術品補償制度の活用による国民的利益に関する取組結果

※申請書に記載した、補償制度活用による国民的利益（軽減された保険料の使途、効果等）の達成状況について、データを提示しながら記入

<入場料の無料化・軽減>

2025年3月1日から3月16日までの14日間、全ての大学生・専門学校生を入場無料とした。該当期間中、想定(6,048人)に対し5,627人が来場し、無料対象となった。大学生・専門学校生の入場料無料化・軽減措置を実施したことで、貴重な海外美術の作品を対象者が鑑賞する機会を提供できただけでなく、展示の内容や作品画像、解説に関してもSNS等で周知・拡散され、若年層に向けて本展の文化的意義を広く知らしめる施策となった。

<展示作品の質的充実>

ソフィア王妃芸術センターから作品3点を借用でき、活動初期の作品が充実した。これにより、ミロの造形的な試みを来場者に幅広く紹介することができた。

<教育普及活動の充実>

カタルーニャの現代美術の専門家であり、本展の主要な借用先であるミロ財団館長 Marko Daniel 氏を招聘し、記念講演会を実施した。2025年3月1日、東京都美術館講堂で開催し、定員225名のところほぼ満席となった。これにより、より多角的にミロの紹介をすることが可能となった。

3. 事故の有無(軽微な事故、ヒヤリハット事例も含む)

※ヒヤリハット事例とは、事故には至らなかったものの、事故となってもおかしくなかった一歩手前の事例をいう。文字通り突発的な事象やミスにヒヤリとしたり、ハッとしたりするもの

特になし

4. 安全配慮に関する特別の対応

※事故を防止するために実施した特段の安全配慮(特に、輸送や梱包に関することや、展示に関して、他展にも参考となりうることを記入

作品輸送時には、日本側主催者または貸出館のクーリエが車両に同乗した。また、開梱および梱包時には、貸出館のクーリエと日本側の修復家が共同で作品の点検を行った。これにより、作品の安全確保に万全を期した。

5. 紹介事例・今後の改善点等

※国民の優れた美術品を鑑賞する機会の充実という観点から、主催者の自己評価等を記入。その際、他の美術館の参考となる好事例や改善点等を積極的に記入

本展は、存命中の画家自身が協力した1966年の展覧会に並ぶ最大規模の回顧展であった。美術品補償制度の適用により、ミロの作品を多数所蔵するミロ財団および国立ソフィア王妃芸術センターから重要な作品を借用することができ、質・量ともにこれまでにない規模で実現することができた。1966年の個展では展示されなかった最晩年の作品を含め、初期から晩年まで代表作を網羅的に紹介できたことで、ミロという巨匠の全体像を来場者に伝えることができた。

また、東京都美術館での高校生、大学生・専門学校生の入場無料日を設定し、本展関連印刷物に記載することで、広く周知した。

6. 展覧会の収支決算書

主催者名

東京都美術館(公益財団法人東京都歴史文化財団)、ジュアン・ミロ財団、朝日新聞社、テレビ朝日

(収入)		(支出)		単位＝万円(税抜)	
内 訳	決算額 (当初予算額)	内 訳	決算額 (当初予算額)		
展覧会収入 (入場料、図録、グッズ等)	50,923 (63,798)	企画準備等基本経費 (借用料、保険料、輸送費、印刷費等)	42,024 (45,361)		
その他の収入 (協賛金)	2,530 (1,000)	設営・運営等会場関係経費 (広告宣伝費、展示施工費、警備費、会場使用料等)	15,619 (15,800)		
収入総額	53,453 (64,798)	支出総額	57,643 (64,861)		